



幼稚園でのクリスマス後、新年を迎えるまで我が子の中では、ずっとクリスマスが続いていました—というアンケートをいただきました。子ども達一人ひとりの心にどのような思いが残っているのでしょうか。

3学期に入ってまもなくの昼食時、ひよんなことからクリスマスの話になりました。

「私、ガブリエルがいい」

「僕はローマ兵にした」

「天使の歌が歌いたいんだア」

「えっ、どっちの歌？」

♪おめでとうマリア？それとも ♪天使の讃美は～♪の方？」

「そっち、そっち ♪天使の～」

「僕はね、ハンドベルやりたい 宿屋もいいんだけどなあ」


「○○○は、何がやりたい？」

「(笑顔で)……………」

「まだ決まってないんだね」

讃美礼拝での年長児の姿が印象的だったのでしょうか。年中児、年少児がクリスマスでどの役がやりたいかを次々に口にしていきます。年長児も話に加わりながら、詳しく教えてくれました。子ども達の会話を聞きながら、同じ時を過ごし次への期待を持ったのだと嬉しく思いました。はっきりと思いを口にするとすれば、まだそこに至っていない子もいます。しかし一人ひとりの姿からその時を共に過ごし、何かを肌で感じとっていくことがどれだけ大切かと思いました。そして年長児が最後に言った言葉は「いいなあ～クリスマスができて」でした。どれだけ嬉しく、楽しい時だったのかがこの一言に詰まっていると思います。自分は幼稚園ではなく、小学校でクリスマスを迎えるんだと次に向かって子ども達にも成長を感じました。

さて今回のこどもニュースはクリスマスアンケート特集です。保護者の皆さんと思いを共有できたらと思います。

(まさえ )

今回も丁寧で温かいまなざしのご記入をありがとうございました。抜粋をご紹介します。
いただきます。



*クリスマスを待ち望む



- ◆家では毎日クリスマスの賛美歌をとて嬉しそうに歌っていて、気付けば家族みんなでクリスマスの賛美歌を歌う時間が増えていきました。私自身、もろびとこぞりてという意味を調べてみたりと、私なりにクリスマスを楽しみに待てたような気がします。
- ◆プログラムを一緒に作ったり、毎日家でも歌を歌っていたり、当日までの過程もとても楽しかったです。
- ◆お休みの子の心配をしたり、他の子のセリフまで覚えていたりと日に日に深くお話に入りこんでいく様子は目標に向かい自分と向き合いながら進むたくましさを感じました。
- ◆クリスマスは11月の終わり頃から始まっていたようでした。終わってもお正月を迎えるまで讃美礼拝は続いていたようでした。みんな一生懸命自分の役割を果たそうとされていてすごくてきでした。
- ◆プログラムを一緒に作ったり、子どもへのメダルを作ったりと私もクリスマスを持つ気持ちがつくれたので去年とは違う気持ちでクリスマスを迎えられそうです。
- ◆もうすぐクリスマスなんだ、僕は聖歌隊なんだ、おぼえる曲が7曲あるんだ、クリスマスはイエスさまのお生まれになった日なんだ、もしかすると、1年で1番行事を心待ちにし、そして自分の役割にほこりをもってやりとげようとしていたのではと思います。
- ◆毎日おいのりして献金をして…クリスマスをこんなにも待ち遠しい気持ちで楽しみに出来たのは、今年が初めてだと思いました。
- ◆自分の本当にやりたいと思った役を選び、年少児ながらも自分も讃美礼拝の役を担う一人なのだという気持ちが伝わってきました。

アドベントは「待降節」ともいいます。その字の通り、イエス様のお誕生を待つ1カ月のことを言います。アンケートから、こども達が様々な準備を通してクリスマスを迎える姿におうちの方が、しっかりと共感して下さる様子が伝わってきました。生活のいろいろな場面で「スピード」を求められ、また何でも「すぐに」手に入る時代、ゆっくりと時間をかけ「待ち望む」ということがどれだけ大事な事か。
待つからこそ喜びも大きいことを、こども達は教えてくれます。



*クリスマスを通して「育ちあう」



- ◆わが子だけでなく、あの子もこの子も…みんなの成長の様子を肌で感じることができ、あの特別な雰囲気大好きです。
- ◆ついに自分のクリスマスブックをもらった時のうれしそうなお姿が印象的でした。年少さんから知っている子たちが年長になってその成長した姿に、わが子とはまた違った感慨がありました。
- ◆賛美礼拝は初めての参加でした。年長さんのセリフや歌にとっても感動しました。緊張感のある空気の中で1人1人が堂々と演じているのにおどろきです。
- ◆年少、年中の母親達が、見やすい席を年長の父母に譲り合う姿が、金城学院らしく素晴らしいと思いました。また親子礼拝では素敵なハンドベルコンサートを鑑賞することができ、ありがとうございました。
- ◆讚美礼拝での自分の役割を理解し、一生懸命努めようとする姿に成長を感じました。
- ◆過去に4回も見て、今年は(自分の)子どもも年少さんで、セリフのあるお役ではなかったけれど、こんなに子どもの歌声に感動したことはありませんでした。あの歌声で約2000年前のあのシーンをよりはっきりイメージさせてもらえて感謝なひとときでした。
- ◆2回目のクリスマス礼拝でしたがクリスマスの意味を理解し、聖歌隊の歌詞を一生懸命覚えようとする姿に成長を感じました。そして年長さんの姿を見て早く私もこういう風になりたいという思いが強くなっていくのを感じ嬉しく思いました。
- ◆入場する姿がとても頼もしく見え、こんなにも成長したのかと感動しました。各々が自分の役に集中し、できることを精一杯やる力を発揮できたように見えました。
- ◆今年の年長さんは人数が少なくなってしまうので、どうなるかしらと思っていましたが、皆立派にそれぞれの役を演じていて、素敵な讚美礼拝で感動の涙でした。
- ◆讚美礼拝では少し緊張した面持ちでしたが、年長さんの姿を見て“自分はいつかあの役をやりたい”と刺激を受けていました。
- ◆年少さんの時は讚美歌を家で歌うこともなく、礼拝当日も何となく過ごしていた息子が、今年は家でもずっといろいろな讚美歌を歌っていて、クラスの年長さんのパートの歌も上手に全部歌えていて感激しました。
- ◆年長さんの役を見て来年は「何をやりたい」というようになって自分のやりたいことの目標ができて素晴らしいと思った。
- ◆年長さんの姿を見て、やってみたい、頑張りたいと目標ができるまでにお姉さんにな

ったんだなと感じました。

園の保育目標「愛され、育ちあう」ということがまさに讃美礼拝を中心とした園のクリスマスの中に凝縮されています。異年齢のこども達が一緒に生活をする、ということは、こども達自身が身近な友だちの姿に、少し先の大きくなった自分を想像したり、少し前の小さかった自分を振り返って、今の成長した自分を実感できるということです。初めて全員でのハレルヤに参加した日、年少さんたちは本当に真剣に見ていました。そんな年少さんのまなざしに、年中さん、年長さんはドキドキしながらも誇らしげに自分の役割を果たそうと一生懸命でした。共にその場を共有することで大人が思っている以上にお互いに刺激を受けあい「育ちあって」いるのですね。

その子ども達を真ん中に私達おとなにも「育ちあい」の輪が広がります。



* 「変わらないもの」を大切に



- ◆年中・年長さんの姿を見ながら、毎年同じことに取り組んでいくことがとてもいいと思いました。
- ◆子どもたちの入場前、すぐに話に花が咲いてしまう母親たちもシンと静まって礼拝が始まる準備が整っている時間が心地よかったです。数十年続いている幼稚園の生誕劇、幼い子どもたちが発する言葉や純粋な歌声に深い感動とクリスマスの喜びが満ち溢れ、これからも変わらずに続いてほしいと願います。
- ◆毎年の積み重ねがこの自信に繋がっているんだなと思います。皆で一つのものを大切に続けていくことのすばらしさを感じました。
- ◆みんなの歌声につつまれて、神聖な気持ちになり、その空間を全員でつくることができたことに感謝します。
- ◆上の子のときから数えると、もう6回目となる讃美礼拝でしたが、かわらないものがあることは素敵なことだと感じます。
- ◆神様が真ん中に居てくださり迎えるクリスマスは素敵です。
- ◆子どもやスタッフが入れ替わっても、クリスマスのコアの部分は変わらずに継続されていくといいなと思う内容だった。

今回のアンケートでは、「変わらないものを大事にしていく」ことについてもたくさん感想をいただきました。

今、こども達をとりまく生活は、ありとあらゆるものが出現しては、あっという間に消えていきます。そんな社会に生きるこども達にとっても、私達おとなにとっても、「変わらずずっとある」、「何十年も継続して積み重ねていかれるものがある」と知っていることはとても幸せなことなのではないでしょうか。



*本当のクリスマス



- ◆アドベントやイエス様のお誕生のお話など詳しく知らなかったことが、園からのお手紙で知ることができて、子どもと一緒にクリスマスへ向けて気持ちが高まっていき、良かったです。聖書を読む会へも初めて参加して和やかな雰囲気でお話が聞けて良かったです。
- ◆讚美礼拝そのものもやはり感動しましたが、振り返った時こうして親子で過ごした日々が一番の宝物になるんだろうなと感じました。
- ◆クリスマスの本来の意味を子どもにもよくわかるよう教えていただき、今年はサンタのサの字も子どもの口から出てきませんでした。メダルを渡したときの心から気持ちのこもった「ありがとう」を聞いたとき、ありがとうと思える気持ちをたくさん育ててもらったんだな、と幼稚園には感謝しかありませんでした。
- ◆本当のクリスマスの意味を子どもなりに理解してステキなクリスマス礼拝を迎えることができました。
- ◆家族が日本のクリスマスムードになっている時に、クリスマスは「イエス様が生まれた日なんだよ」と厳かに教えてくれました。
- ◆イエス様がお生まれになった喜びを改めて感じることでとても良かったです。
- ◆改めてクリスマスの本当の意味を良く考えながら、子どもたち、先生方と一緒に良いクリスマスを過ごすことができました。
- ◆普段と同じ遊戯室なのに、讚美礼拝の時は毎回まるで神聖な空間にいるような不思議な感覚になります。
- ◆昨年よりもクリスマスの意味を捉えていたと思います。待ちわびることの楽しさ、大切さを感じました。
- ◆クラスの集まりでは、一生懸命やすりがけしたボードゲームをもらいました。子ども

のやすりがけしている姿、どんな気持ちでやすりがけをしてくれたのかを想うと、とても嬉しかったです。礼拝の最後、のりこ先生の言葉を聞いて、自分たちだけでなく、周りの人たち、日本、世界中の平和を願い祈る一日となりました。

「こうありがたい」という園の願い、本当のクリスマスの意味や大切にしていることを様々な形でお伝えしました。こども達の姿から、その意味を受け取ってくださり、また共感していただき感謝しています。



*クラスの集まり・プレゼント



- ◆心静かに礼拝を捧げたあとの、クラスでの集まり時間は、子どもたちの日頃の様子を垣間見られる嬉しいひとときでした。
- ◆絞り染めTシャツも前もって知っていたプレゼントでしたが、出来上がりを見て頑張りを感じられ、素敵な贈り物だなと思いました。
- ◆今まではプレゼントをもらうことを楽しみにしていたのに、私にプレゼントを贈ることを楽しみにしていました。
- ◆クラスの集まりも、想いの詰まったプレゼント、部屋中に飾られた手作りの作品を見て胸が熱くなりました。にぎやかにワイワイとクラスのお友達と過ごせるアットホームな時間に、普段のクラスの様子が見られて嬉しかったです。

少し緊張しながら讚美礼拝をしたこども達、クラスでは一転リラックスして、どのクラスからも楽しそうな笑い声が聞こえましたね。子ども達からも、おうちの方からも、心のこもったプレゼント。形のあるものにつまった「気持ち」が1番のプレゼントでしたね。



*親子礼拝



- ◆アニー・ランドルフ記念講堂での礼拝、とても素敵でした。羊飼いのお話も分かりやすく、心に染みました。キャロリングもみんなとてもかわいくて、本当に天使の歌声でした。
- ◆親子礼拝の時、赤ちゃんの声はして当然かと思いますが、きちんとお話ができる子の声がするのは、あまり好ましくないと思います。礼拝時に限らず、自由をはき違えてい

る保護者が増えているように思います。

- ◆親子礼拝では父親も参加することができ、家族にとっても良い日となりました。授乳室があるのは、とてもありがたいです。
- ◆親子礼拝では、ハンドベル等のコンサートも聴くことができ、クリスマスらしい時間を過ごすことができました。
- ◆親子礼拝で、子どもたちの集中力がもたないように感じたので、全体的にもう少し短くてもいいかなと思いました。

今年は讚美礼拝から3日間あいて親子礼拝が行われました。久しぶりに会うお友達に大喜びの子ども達でした。そのためか、特にコンサート中のマナーが気になりました。せっかくの機会、楽しんでいるかたも大勢います。礼拝やコンサートに限らず公共の場のマナーをこども達に伝えるのは大人の役割です。お互いに気持ちよく過ごせるように気遣いあっていきたいですね。



*その他



- ◆カメラマンのフラッシュが多すぎて、クラクラしました。もう少し控えていただきたかったです。
- ◆クラスの集まり、パパも一緒に参加できるといいなと思いました。
- ◆ハンドベルが大好きになったので、親子礼拝では大きいお姉さんたちとのハンドベル体験を楽しみにしていましたが、今回はなかったもので、少し残念でした。

暖かい感想と同時にいろいろなご意見、ありがとうございました。クラスのあつまりは皆さんに参加していただきたいのですが場所の広さ等の課題もあります。子ども達にとって一番楽しく豊かな時間を、と考えています。ご理解ください。ミニコンサートは、こども達に豊かな経験を、と企画していますので、これからも様々なジャンルのものを考えています。企画も様々です。どうぞお楽しみに。

